

## 要旨

キーワード：ケア，小学校，学級経営

### 1. 緒言

子どもはケアされるべき存在である。ケアとは、「その人が成長すること，自己実現することをたすけること」（メイヤロフ，1987）と定義され，ケアしケアされるというケアリングの関係性が重視（ノディングス，2007）される概念である。しかし，社会の変化に伴い，子どもたちは成長や社会関係における様々な課題を抱えており，十分にケアされているとは言えない。こうした状況のなかで，多くの子どもが一日の大半の時間を過ごす場所が学級であることから，学級におけるケアが重要となる。実際に，学習指導要領の内容から，学級経営にはケアの要素が含まれていると考えられる。しかし，学級経営をケアの視点でとらえた研究は見当たらない。そこで本研究は，小学校の学級担任が行う学級経営にはどのようなケアの要素があり，どのような関連構造になっているかを明らかにすることを目的とした。

### 2. 方法

経験年数 10 年以上の小学校の学級担任 15 名を対象に，半構造化インタビューを実施した。主な質問は，学級経営で大切にしていることやどのような学級づくりを目指しているか，そのような学級経営，学級づくりのためにどのようなはたらきかけや声かけ，配慮を行っているか，という内容である。分析は，テーマ分析の方法(Erlingsson, 2017)を用いた。

### 3. 結果

学級経営におけるケアをまとめた【担任が子どもに行うケア】というテーマにおいて，ケアの要素として 9 つのカテゴリーが抽出された。これらは，4 つのコアカテゴリーに分類でき，構造化された。さらに，【担任が子どもに行うケア】の背景にあるものとして，【ケアの背景】【ケアの土台となる教育観】【目指す学級像】【子どもの変化や成長】という 4 つのテーマが得られた。

### 4. 考察

学級経営におけるケアはどのような性質をもっていたか，本研究で得られたケアの要素は妥当であったか，本研究で新たに明らかになった要素は何か，構造化することによって得られた新たな発見は何か，学級経営におけるケアを促進するためには何が必要か，本研究における限界と課題は何か，という 6 つの観点で考察した。学級経営におけるケアは，学級経営の先行理論における受容的側面と規律的側面の両方を含む構造となっていた。したがって，ケアの視点で学級経営を捉え直すことにより，子ども同士が互いを大切にでき，ケアされる権利が保障された学級づくりの在り方を明確化できると考えられる。

### 5. 結論

学級経営にはケアの要素が含まれていることが明らかになった。その内容は，子どもをよく理解し，本来の姿を受けとめ，成長をたすけ，社会関係のなかで他者をケアできるようにするためのはたらきかけであった。